



みんなの想い

亡くなられた方への「追悼」
全国からの支援に「感謝」
経験と教訓の「伝承」
復興した姿を全国へ「発信」

伝えたいのは



7・13水害・中越大震災から10年

想いをひとつにつなぐ 「フェニックスプロジェクト」始まる

キャッチフレーズは
復興10年 たくましく前へ、長岡
～そのさきの未来へ～

主な事業 (来年3月までの予定から抜粋)

■復興祈願花火「フェニックス10」の打ち上げ
市民の復興にかけるパワーの象徴「フェニックス花火」の打ち上げと、メモリアルDVDの発売や記念誌を発行し、10周年の想いを全国へ届けます。

■中越大震災復興の集い
山古志・川口地域の追悼式とアオーレ長岡を三元中継11地域で花火同時打ち上げ



- フェニックスコンサート
10月23日復興コンサートを開催
- 東日本大震災の被災地支援
地域づくり事例集の発行
岩手県大槌町との交流

復興10年の節目の今年、全市を挙げて復興した姿を全国に発信するため、復興を支えてきた市民と市が協働し、復興10周年記念事業「フェニックスプロジェクト」を進めます。

このプロジェクトは、NPO法人復興支援ネットワーク・フェニックスをはじめ、復興に携わってきた市民活動団体からの提案により立ち上げた推進会議で一体的に取り組んでいきます。

4月24日の第1回会議で、統一コンセプト（上）やキャッチフレーズ、ロゴマーク（左上）を決定。構成団体が計画している事業をフェニックスプロジェクトとして連携して取り組むことを確認しました。来年3月までのプロジェクトを一丸となって展開します。

■地域振興戦略部 ☎39・2515

共同会見でスタート



▶フェニックスプロジェクト推進会議の発足を発表する森市長と座長を務めるNPO法人復興支援ネットワークフェニックス代表理事の樋口勝博さん。推進会議の事務局は市と同NPOに置きます（4月16日）

ご紹介いたします

4月1日付けで、常勤の代表監査委員に金山宏行（前政策監）が就任しました。和田隆代表監査委員は、3月31日付けで退任しました。



金山宏行 代表監査委員

大河津分水路 拡幅へ

水害から市民を守る〆 改修工事に向け調査着手

国土交通省北陸地方整備局が大河津分水路改修の調査に着手しました。

大河津分水路改修は、市の水害対策を考える上で根幹となる重要な事業。信濃川はもとより中小河川も含め、治水安全度が大きく向上します。

流域に暮らす私たちに信濃川がもたらすもの

市の中央を流れる信濃川。昔も今も、そして未来も、流域に暮らす私たち市民に大きな関わりを持っています。市内を流れる河川のほとんどは信濃川に通じ、癒やしの水辺空間であるとともに長岡の市民生活と産業振興になくしてはならない水資源です。

一方で、毎年梅雨の時期になると、大雨で信濃川水系は増水。平成23年7月の新潟・

福島豪雨では、長岡市街地や栃尾・川口地域などで甚大な被害が発生。大河津分水路の水位上昇により寺泊地域には避難準備情報を発表しました。

世紀の大プロジェクト ついに始動

大河津分水路は大正11年に通水。以来幾多の大雨に耐え、広大な流域の発展に寄与してきました。そして今年、92年ぶりに抜本的改修に向けて調査が始まります。

現在の大河津分水路は河口に向かって川幅が狭くなり流下能力が不足しています。これを拡幅改修することで、信濃川の中流部に位置する本市でも水位が低下。栖吉川や黒川など信濃川水系の中小河川の水の流れもよくなります。この改修は、本市はもちろん

改修工事の残土を活用 寺泊で道路整備を構想

市は20～30年後を目途に、海岸沿いに寺泊湾岸道路、大河津分水路の左岸堤防上に寺泊アクセス弾丸道路を整備する構想をまとめました。アクセスの向上で、年間280万人の観光客が訪れる寺泊港周辺地域の活性化を図ります。



流域全体の治水上、不可欠の事業なのです。

早期着工を要望

市はこれまで、大河津分水路をはじめとする信濃川水系の改修を国と県に要望し続けてきました。昨年6月には、「信濃川改修期成同盟会」(会

長・森市長)と「大河津分水路修促進期成同盟会」(会長・新潟市長)が国に平成26年度中の事業着手を要望しています。水害から信濃川流域に暮らす市民を守るため、今後も、一日も早い工事着手を国に強く要望していきます。

河川港湾課 ☎39・2233